

大森消防団第四分団長の交替

十七年の長期にわたり、大森消防団第四分団長として活躍くださった坂本昭男氏が勇退され、後任に副分団長の田口英雄氏(六十五歳)が昇格致しました。田口氏は、消防団歴四十二年、現在、中央四丁目町会防火部長として活動されています。

「重責を感じます。いざという時のため、団員のより強い団結を心がけます。」田口新分団長の新任の抱負です。

楽しく民踊を踊りましょう

毎月第四日曜日に、入新井第四小学校体育館で、舞踊研究会の先生を招き、全国各地の有名な踊りを逐次ご指導していただいております。現在は「佐渡おけさ」を習っているところです。



唄に合わせ、体を動かす、健康と美容を保つ。近隣の他町会の皆さんにも参加を呼びかけ、日頃から親睦を深める。このような目的のために発

足したこの会も、重ねること十八回となりました。夏には盆踊りも盛大に開催いたします。踊りに興味をお持ちの方の参加をお待ちしております。
(新井宿六丁目町会民踊部)

大田区区政功労者表彰

去る三月十五日、大田区政に特に功勞のあつた方々に対する表彰が行われました。受章された当地区の方々を、分野ごとに紹介します。さらなる活躍をお祈りいたします。
(敬称略、五十音順)

- ※区議会議員 飯島修一郎 岩井 久年
- ※交通安全協議会委員 市川 健一
- ※保健衛生協力員及び伝染病予防委員 秋田 禮一 宇井 博



防災訓練の大切さ再認識！
旧新井宿七丁目町会内で、昨年末に不審火があり、無人の工場で廃材が燃えましました。近所の女性が発見し、日頃から防災訓練を積んでいる町内の方々の協力で、早期に消火することができました。
左の写真は、我が町会の誇る消防隊、出初式の勇姿です。
(旧新井宿七丁目町会)

編集後記
▽第八号は、新入学・新学期の特集として、地域の公立小・中学校のPTA会長、校外指導の皆様が執筆していただきました。また、第一面は義民六人衆ゆかりの善慶寺の壘慈鴻住職に執筆をお願いしました。
皆様ご協力ありがとうございました。
▽創刊号より編集委員としてご活躍くださいました阿部智子様が、交替されました。ご協力に感謝いたします。
後任として、飯野綾子委員、松浦カズ子委員をお迎えしました。前任者同様、よろしくお願ひいたします。
▽皆様のご意見、ご感想をお待ちしております。
(小松委員・前田委員)

発行 わがまち大田新井宿地区推進委員会
編集 「わがまち新井宿」編集委員会
監修 新井宿地区自治会連合会
事務局 大田区新井宿特別出張所
三七七六一五三九一

自治会 自治会 自治会 自治会 自治会
東目 東目 東目 東目 東目
三丁目 三丁目 三丁目 三丁目 三丁目
山王 山王 山王 山王 山王
山中 山中 山中 山中 山中
新井 新井 新井 新井 新井
旧新 旧新 旧新 旧新 旧新
..... 共同編集

わがまち Araijuku 新井宿

新井宿 義民六人衆について

善慶寺住職

壘 慈鴻

大森駅を降りて池上通りを環七通り交差点に向かうと、大森郵便局の前に大きな常夜灯が一際目立ってたっています。その奥に、今から七百五十年前、正応五年に建立された日蓮宗善慶寺があります。この常夜灯は義民六人衆にまつわる灯で、今から三百二十年前に遡ります。

現在の山王の地は、その昔武蔵国荏原郡新井宿村と呼ばれ、徳川時代に不正な検地による無理な年貢取り立てが行われていました。悪いことに延宝元年の早魃、翌年の六郷川氾濫、翌三年は飢饉となり、江戸では救助米が施行された程でした。村での年貢に追い立てられる窮状は言語に絶するもので、子女は奉公に出して口減らしをし、高い金利の金を地頭から借りてまで年貢を納めなければならず、その借金が返済できずに田地を取り上げられたり、家や馬を手放す

いたの。。

こうした暴政に耐えかねた村人の代表六人は死を覚悟し、老中へ駕籠訴えをするか、奉行所の白州へ駆け込み願をする他なしと、義拳の行動を起こすことになりました。そこで延宝四年十二月に江戸表に赴き、浅草馬喰町の武蔵屋に泊り、訴訟の機会をうかがったのです。しかし役人に密告する者があり、六人はあと一息のところまで正月二日宿に乗り込んできた役人に捕えられ、ついに延宝五年一月十一日、むごい斬首に処せられたのです。

村に帰った六人の遺骸は、直訴の罪を犯した大罪人として葬儀や法事、墓を立てることも許されず、家は断絶、財産は没収となり、菩提寺も引き取ることさえためらったのです。そこで善慶寺二十世日応上人が六人の遺体を引き取り、当時の禁を破って墓域に葬り、供養に心がけました。その後間宮蔵 郎が、

ひそかに葬られていた六人衆の骨を拾って、甕に入れ供養したのです。この墓は、藤八郎の父母の法名が正面にあり、他人の目を避けるように、墓石の裏面に六人の法名が刻まれています。墓の台石には、四方に花立てと水入れが掘られ、その間をくり抜いて、前に手向けた水が裏側にも巡って、人知れず供養ができる仕掛けになっています。

なお、十九か条からなる訴状帖は、写しが間宮太郎兵衛分家の子孫の家より明治三十四年に発見され、郷土史料の貴重な文献として、昭和三十九年四月二十八日に都の文化財に指定されました。現在では高等学校の教科書にも掲載され、広く義拳の精神が今に伝えられています。今年には三百二十年という節目の年を迎え、盛大に報恩法要が厳修されます。



この情報紙は、思いやりとふれあいのある町づくりに役立つよう願って発行しています。



大森第三中学校

PTA会長

市川賢章

校外指導部長

八束順子

「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」ということわざがあります。新学期が始まり、子供達の新しい旅がスタートします。いわば未知との遭遇の旅です。人に何かを尋ねるといことは案外勇気のいる事です。特に、「簡単なかな」と思えるもの程、人には聞けないと思ってしまう。そしてその簡単な事が、意外と人生において落とし穴になることもあるのです。

元子供だった我々大人は、いつも心を開いて、子供達の疑問や問いに、同じ目線で答えてあげたいものです。地域の皆様方のあたたかいご協力を、心からお願い申し上げます。

昨年は地元の皆さんにご迷惑やご心配をおかけしましたが、今、三中では先生、保護者一体となってよりよい方向へ進めるよう努力しております。「どこ

のただれか知らない子が何かやってる」ではなくて、直接でなくとも、学校にでも言うべきこととは言って、ぜひ暖かく見守っていただけたら、子供達も心おだやかに成長していけるのではないかと思います。ふだん忙しさにかまけて、我が家に三中生がいなくなると三中が自分達の地元中学校だということを忘れがちです。学校の中でも努力は続けていきますが、地域の皆さんにもご協力をお願いします。



入新井第二小学校

PTA会長

広瀬義裕

PTA校外委員

阿久津浩代

通学路に子供達の元気な声が聞こえると、不思議と明るくなった様な気がする。この明るさをいつまでも失う事のない様にしたい。昨今子供達を取り巻く環境は、非常に厳しい様に思われる。学校五日制、いじめ問題、児童数の減少、どれもむずかしい問題である。この様な中でも子供達は子供らしさを失わずにとるのは私だけではないだろう。あと数年で二十一世紀がやって来る。いつの世でもどこの国でも、子供は次の時代を担う大切な宝物である。だからこそ明るく元気に、そして次の時代へのバトンを受け取るにふさわしい人間になってほしい。

私事になるが、私の母校は当時にしては少人数だった為、大変仲が良く喧嘩もしたが、ここぞという時強い団結力があつた。皆、ニックネームで呼び合える。当然いじめもない。学校生活が充実していた分、思い出は深いものがある。二十五年経た今も、先生方も交え学年あげての同窓会をする。新幹線や飛行機を使つても大勢集まる。昔の仲間

新学期をむかえ 子供達に思うこと

春を告げる風が吹き、時が巡って、また通学路に元気な新一年生の姿を目にする季節になりました。そのキラキラ輝く瞳に、大人は昔の自分の姿を重ね、思わず声をかけてしまいます。

「大人になったら、何になりたいの？夢をたくさん持ってね。」

今回は、各校PTA会長・校外委員の方々に、学校で、また地域で日頃子供達に接し、その成長を暖かく見守って下さっている立場からのご意見をいただきました。

新一年生に私達の未来を託し、新しいその一歩に、限らない期待をもって、この特集を組みました。



山王小学校

PTA会長

鈴木英明

PTA校外委員長

山崎三津子

「自分の人生は自分で決めるから」今年中学進学の子が母に言い返した。隣で聞いていて、父親としてハツとしつづめたのもしく、そして親はなれの時宜をも感じさせられた。

中学生の非行が話題になっている。しかし新聞では更に多くの大人の非行が氾濫している。決して焦点を絞らずに子供達を見ていきたい。自立しようとしている子供達を大きく見守れる社会、その核として私達親が向こう三軒両隣と言葉を交わせる、小さな社会をまよがえさせたい。

自分で積み上げた積木を自ら壊す人はいない。垣根を越えた家庭から、若き友人達の成長を見守りたい。



入新井第四小学校

PTA会長

尾崎 悟

PTA校外指導委員長

佐藤朋子

都会で暮らす子供たちには、よく、ふるさとなんと言われまふ。山紫水明ののどかな田園は望むべくもありませんが、都会にも、その土地に生まれ、幾つかの歳月を過ごせば、思い出が出来、友人とめぐり逢い、その町の景色が心の中に鮮やかに芽吹いてゆきます。PTA活動や地域活動は、その組織を支える皆様の力によって、排ガスや大通りの喧噪も及ばぬ、子供たちの心象風景の土壌造りの一役を担うものと思えます。

いつの日か、それは二十一世紀かもしれないですが、この町の角に懐かしい一陣の風と共にたらずんでみてほしいものです。

校外委員になってから町会や青少年対策委員会、学校行事など子供達と一緒に参加してきました。おまつりのおみこしで蚊の泣くような声が、終りごろには力強くまとまったこと、また農業学習体験ツアーでは、小さなカエルや虫に大喜びしたこともありました。さらに参加者の少ない美化デーの掃除に必ず参加して、とても楽しそうに掃除している子供達。参加した子供達は、それぞれ楽しい時間を過ごしたかと思えます。やってみたら楽しかったことって意外に少なくないと思えます。これからも親子、家族で参加してみま

せん。

桜の満開の頃、子供達は元気いっぱい胸を弾ませています。この春、初めて学校生活を経験する子、進級のうれしさをかみしめている子、各々子供達の目はいつになく輝いています。私達親の願いは、やはり健康で、のびのびとした楽しい小学校生活を送ってもらうことではないでしょうか。とくにこの小学生の時期でなくては経験できぬことや、最も大切なことを学んで欲しいものです。多くの諸問題を抱えている現在の教育ですが、一人ひとりの健全な精神があれば、必ずや良い結果が得られると信じています。

さあ心も身体も軽くこの春の扉を押し開けて、明るい未来に向かって飛び出しましょう。